

〔口語文法シリーズ〕 文法1(文節①)

年 組 氏名

文の中には区切れ目があります。  
意味がわかる程度に区切ったひと区切りを文節といいます。

(例) 向こうの／角に／小さな／犬が／いる。

このように「向こうの」「角に」「小さな」「犬が」「いる」の5文節に区切ることができます。

文節の切れ目に「ね」「よ」をつけていうこともできます。

向こうの<sub>ね</sub> 角に<sub>ね</sub> 小さな<sub>ね</sub> 犬が<sub>ね</sub> いる。

<問題>

次の文を / を使って、文節に区切りましょう。

- ① 明日は体育大会だ。
- ② あの丘に登れば、海が見える。
- ③ 黄色い花が風にゆれている。
- ④ 観衆が彼に向かって拍手をおくった。
- ⑤ 公園にはたくさんの人々が集まる。
- ⑥ 練習が終わったのは、5時半だ。
- ⑦ わたしの父は会社員です。
- ⑧ わたしの夢は、作家になることだ。
- ⑨ 昨日家族みんなでドライブに行きました。
- ⑩ 道を歩いていると、おばあさんに道を聞かれました。

## 〔口語文法シリーズ〕 文法1(文節①)

年 組 氏名

学習するみなさんへ：

正しく答えられましたか？

文節に区切ることは、これから勉強していく「口語文法」（言葉のきまり）の基本になります。はじめは慣れないかも知れませんが、慣れてくると簡単です。

次回も、文節に区切る練習をします。

## 解答

- ① 明日は／体育大会だ。
- ② あの／丘に／登れば、／海が／見える。
- ③ 黄色い／花が／風に／ゆれて／いる。
- ④ 観衆が／彼に／向かって／拍手を／おくれた。
- ⑤ 公園には／たくさんの／人々が／集まる。
- ⑥ 練習が／終わったのは、／5時半だ。
- ⑦ わたしの／父は／会社員です。
- ⑧ わたしの／夢は、／作家に／なる／ことだ。
- ⑨ 昨日／家族／みんなで／ドライブに／行きました。
- ⑩ 道を／歩いて／いると、／おばあさんに／道を／聞かれました。

「会社員です」は「会社員だ」を丁寧に、「行きました」は「行った」を丁寧にいったものです。「ます」「です」だけでは文節は区切りません。

「歩いている」のように「～ている」「～てみる」「～てある」は「～て」と「いる」「みる」「ある」で文節を区切ります。

〔口語文法シリーズ〕 文法2(文節②)

年 組 氏名

今回も、文節に区切る学習です。前回と同じ例をもう一度確かめてから問題に挑戦しましょう。

(例) 向こうの／角に／小さな／犬が／いる。

このように「向こうの」「角に」「小さな」「犬が」「いる」の5文節に区切ることができます。

文節の切れ目に「ね」「よ」をつけていうこともできます。

向こうの<sub>ね</sub> 角に<sub>ね</sub> 小さな<sub>ね</sub> 犬が<sub>ね</sub> いる。

<問題>

次の文を / を使って、文節に区切りましょう。

- ① 彼女がゆっくり振り返った。
- ② 山田君や青木君がぼくを誘った。
- ③ ねこと犬と一緒に遊ぶ。
- ④ おや、あれは佐藤さんだ。
- ⑤ この草花の名まえをあわてずに調べよう。
- ⑥ 夏の太陽がきらきら光ってまぶしい。
- ⑦ ろうそくの明かりで足もとを照らす。
- ⑧ 来週の日曜日に弟や友達と海水浴に行く。
- ⑨ ラジオが正午の時報を告げる。
- ⑩ 漢字にはいくつかの音訓をもつものがある。

## 〔口語文法シリーズ〕 文法2(文節②)

年 組 氏名

学習するみなさんへ：

正しく答えられましたか？

文節に区切ることに慣れてきたでしょうか。次回もまた、文節に区切る練習をします。

繰り返し練習することで自信が出てくるはずですよ。

## 解答

① 彼女が/ ゆっくり/ 振り返った。

「振って」「返る」ではなく、「振り返る」という一つのことばです。

② 山田君や/ 青木君が/ ぼくを/ 誘った。

③ ねこと/ 犬が/ 一緒に/ 遊ぶ。

④ おや、/ あれは/ 佐藤さんだ。

「おや」のあとに「ね」を付けると変な感じがしますが、「おや」は思わず感情がことばになったもので、これだけで1文節です。

⑤ この/ 草花の/ 名まえを/ あわてずに/ 調べよう。

⑥ 夏の/ 太陽が/ ぎらぎら/ 光って/ まぶしい。

⑦ ろうそくの/ 明かりで/ 足もとを/ 照らす。

⑧ 来週の/ 日曜日に/ 弟や/ 友達と/ 海水浴に/ 行く。

⑨ ラジオが/ 正午の/ 時報を/ 告げる。

⑩ 漢字には/ いくつかの/ 音訓を/ もつ/ ものが/ ある。

「もつものが」で一つのことばではありません。「もつ<sup>ね</sup>ものが<sup>ね</sup>」というように「ね」を入れて切ることができます。

〔口語文法シリーズ〕 文法3(文節③)

年 組 氏名

まだまだ文節に区切る学習を続けます。例で区切り方を確かめてから問題に挑戦しましょう。

(例) 道を／歩いて／いると、／おばあさんに／道を／聞かれました。

このように6文節に区切ることができます。

文節の切れ目に「ね」「よ」をつけていうこともできます。

道をね 歩いてね いるとね、おばあさんにね 道をね 聞かれました。

<問題>

次の文を / を使って、文節に区切りましょう。

- ① 疲れたので、公園のベンチで休んだ。
- ② のどがかわいたので、水をかぶがぶ飲んだ。
- ③ 雨上がりの空に美しい虹がかかる。
- ④ 彼女は英語がよくできる。
- ⑤ 突然明かりが消え、あたりは真っ暗になった。
- ⑥ ツバメはそろそろ南の国へ帰る。
- ⑦ 公園のあちこちに美しい花が咲いた。
- ⑧ 彼が来るまで、わたしは待ちます。
- ⑨ 私たちは周りの環境に左右されている。
- ⑩ ぼくは今年から毎日日記をつけています。

## 〔口語文法シリーズ〕 文法3(文節③)

年 組 氏名

学習するみなさんへ：

文節に区切ることに慣れてきたでしょうか。慣れてくればきっと簡単に感じると思います。さあ、いよいよ次回は少し難しい問題に挑戦してみましょう。

## 解答

① 疲れたので、／公園の／ベンチで／休んだ。

② のどが／かわいたので、／水を／がぶがぶ／飲んだ。

「来る／まで」と切らないように気をつけましょう。

③ 雨上がりの／空に／美しい／虹が／かかる。

No.36の文法シリーズ1の⑨と同じです。「待ちます」は「待つ」を丁寧にいったものです。「ます」「です」だけでは文節は区切りま

④ 彼女は／英語が／よく／できる。

⑤ 突然／明かりが／消え、／あたりは／真っ暗に／なった。

⑥ ツバメは／そろそろ／南の／国へ／帰る。

「左右されて」の「左右する」は「左右」と「する」に分けるのではなく、「左右する」という1つのことばです。「〇〇する」でひとつのまとまりです。気をつけましょう。

⑦ 公園の／あちこちに／美しい／花が／咲いた。

⑧ 彼が／来るまで、／わたしは／待ちます。

⑨ 私たちは／周りの／環境に／左右されて／いる。

「今年／から」と切らないように気をつけましょう。

⑩ ぼくは／今年から／毎日／日記を／つけて／います。

〔口語文法シリーズ〕 文法4(文節④)

年 組 氏名

まだまだ文節に区切る学習を続けます。例で区切り方を確かめてから問題に挑戦しましょう。

(例) 道を／歩いて／いると、／おばあさんに／道を／聞かれました。

このように6文節に区切ることができます。

文節の切れ目に「ね」「よ」をつけていうこともできます。

道をね 歩いてね いるとね、おばあさんにね 道をね 聞かれました。

<問題>

次の文を / を使って、文節に区切りましょう。

- ① 今年は、去年の分まで楽しむつもりだ。
- ② テストに備えて一生懸命勉強する。
- ③ 完成した自動車は宝石のように輝いていた。
- ④ 昨日の二人の会話を思い出した。
- ⑤ 雪なので、電車は朝から止まっている。
- ⑥ 用があるなら、明日わたしの家にいらっしやい。
- ⑦ 何か意見がある人は、手を挙げてください。
- ⑧ 印刷された文章の中から、誤字を見つけるのは案外難しい。
- ⑨ ねえ、おじいちゃん、これ見たことある？
- ⑩ 美しい音楽、新しい音楽を聞くと、誰でも心が和んでくる。

## 〔口語文法シリーズ〕 文法4(文節④)

年 組 氏名

学習するみなさんへ：

「文節に区切るなんかもうばっちり！」と思うでしょう？  
 そうです。4回も続けてやったんですから。  
 さあて、いよいよ文節の学習も次回が最終回です。  
 次のシートも全問正解を目指しましょう！

## 解答

- ① 今年は、／去年の／分まで／楽しむ／つもりだ。  
 ② テストに／備えて／一生懸命／勉強する。  
 ③ 完成した／自動車は／宝石のように／輝いて／いた。  
 ④ 昨日の／二人の／会話を／思い出した。  
 ⑤ 雪なので、／電車は／朝から／止まって／いる。  
 ⑥ 用が／あるなら、／明日／わたしの／家に／いらっしやい。  
 ⑦ 何か／意見が／ある／人は、／手を／挙げて／ください。  
 ⑧ 印刷された／文章の／中から、／誤字を／見つけるのは／案外／  
 難しい。  
 ⑨ ねえ、／おじいちゃん、／これ／見た／こと／ある？  
 ⑩ 美しい／音楽、／新しい／音楽を／聞くと、／誰でも／心が／  
 和んで／くる。
- 38文法3の⑨と同じで、「勉強する」でひとつのことばです。「勉強／する」と区切らないように注意しましょう。
- 「宝石のように」は「宝石の／ように」とは区切りません。「～のように」に注意しましょう。
- 「思い出す」でひとつのまとまったことばです。「思い出した」と区切らないように注意しましょう。
- 「印刷する」でひとつまとまりのことばです。「〇〇する」に慣れて

〔口語文法シリーズ〕 文法5(文節⑤)

年 組 氏名

文節に区切る学習も最終回です。例で区切り方を確かめてから問題に挑戦しましょう。

(例) 道を／歩いて／いると、／おばあさんに／道を／聞かれました。

このように6文節に区切ることができます。

文節の切れ目に「ね」「よ」をつけていうこともできます。

道をね 歩いてねいるとね、おばあさんにね 道をね 聞かれました。

<問題>

次の文を / を使って、文節に区切りましょう。

- ① 体調に合わせてトレーニングを変えているらしい。
- ② 悩みのない青春など、めったにないと思います。
- ③ 太郎はほとんど毎日のように、たかしを誘いに来る。
- ④ 雨が降りそうなので、わたしと弟は傘を持って出かけた。
- ⑤ 明るい午後の日が、玄関をおおっているスイカズラの茂みをもれて、わたしの顔の上に降り注いでいた。
- ⑥ 家から出てきた青年は畑を耕していた老人に話しかけた。
- ⑦ 内容を整理して全体がひとつながりの文章になるようにまとめよう。
- ⑧ 誰かに呼ばれた気がして振り返ると、炎のような夕日が沈むところでした。
- ⑨ 発表するときには、みんなのほうに顔を向けて、はっきりとゆっくり読もう。
- ⑩ 今の世の中はどんどん緑が減ってきているので、緑を大切に守っていきたいと思ったのです。

## 〔口語文法シリーズ〕 文法5(文節⑤)

年 組 氏名

学習するみなさんへ：

口語文法を学習する基本となる「文節」の学習が終わりました。これから国語の授業でいろんな文法についてのことから勉強しますが、わから

## 解答

- ① 体調に／合わせて／トレーニングを／変えて／いるらしい。
- ② 悩みの／ない／青春など、／めったに／ないと／思います。  
「降り注ぐ」でひとつのまとまったことばです。
- ③ 太郎は／ほとんど／毎日のように、／たかしを／誘いに／来る。  
「そうな」は付属語です。
- ④ 雨が／降りそうなので、／わたしと／弟は／傘を／持って／出かけた。
- ⑤ 明るい／午後の／日が、／玄関を／おおって／いる／スイカズラの／茂みを／もれて、／わたしの／顔の／上に／降り注いで／いた。
- ⑥ 家から／出て／きた／青年は／畑を／耕して／いた／老人に／話しかけた。  
「話しかける」でひとつのまとまったことばです。
- ⑦ 内容を／整理して／全体が／ひとつながりの／文章に／なるように／まとめよう。  
「振り返る」でひとつのまとまったことばです。
- ⑧ 誰かに／呼ばれた／気が／して／振り返ると、／炎のような／夕日が／沈む／ところでした。
- ⑨ 発表する／ときには、／みんなの／ほうに／顔を／向けて、／はっきりと／ゆっくり／読もう。  
「世の中」でひとつのまとまったことばです。「世の中」と区切らないように注意しましょう。
- ⑩ 今の／世の中は／どんどん／緑が／減って／きて／いるので、／緑を／大切に／守って／いきたいと／思ったのです。

〔口語文法シリーズ〕 文法6(文の成分①)

年 組 氏名

次の文の各文節の中で、その文で一番伝えようとしていること(どうする・何だ・どんなだ・あるくない)が書かれている文節を探しましょう。

(例) 向こうの／角に／小さな／犬が／いる。

注意しなくてはいけませんが、伝えようとしていること(どうする・何だ・どんなだ・あるくない)は、その文の中に一つしかない点です。つまり、「どうする」「何だ」「どんなだ」「あるくない」のどれか一つだけしかない、ということです。この文で伝えようとしていること(どうする・何だ・どんなだ・あるくない)が書かれている文節が、「いる」(あるくない)という文節だと気付くことができましたか？

<問題>

次の各文の各文節の中で、その文で伝えようとしていること(どうする・何だ・どんなだ・あるくない)が書かれている文節を探し、下線を引きましょう。

(例) 向こうの／角に／小さな／犬が／いる。

- ① 明日は／体育大会だ。
- ② あの／丘に／登れば、／海が／見える。
- ③ 黄色い／花が／風に／ゆれる。
- ④ 観衆が／彼に／向かって／拍手を／おくれた。
- ⑤ 公園には／たくさんの／人々が／集まる。
- ⑥ 練習が／終わったのは、／5時半だ。
- ⑦ 突然、／あたりは／真っ暗に／なった。

## 〔口語文法シリーズ〕 文法6(文の成分①)

年 組 氏名

学習するみなさんへ：

正しく見つけられましたか？

文で伝えようとしていることは、その文全部なのですが、その中でも一番に伝えようとしていることは、「どうする」・「何だ」・「どんなだ」・「あるくない」なのです。

(例) 向こうの／角に／小さな／犬が／いる。

また、解答を見比べると気付くように、「どうする」・「何だ」・「どんなだ」・「あるくない」という内容を表す文節は、ふつう各文の最後に位置します。これは、日本語の特性でもあります。

この、「どうする」・「何だ」・「どんなだ」・「あるくない」という内容を表す文節を述語(じゅつご)と言います。覚えておきましょう！

## 解答

- ① 明日は／体育大会だ。
- ② あの／丘に／登れば、／海が／見える。
- ③ 黄色い／花が／風に／ゆれる。
- ④ 観衆が／彼に／向かって／拍手を／おくれた。
- ⑤ 公園には／たくさんの／人々が／集まる。
- ⑥ 練習が／終わったのは、／5時半だ。
- ⑦ 突然、／あたりは／真っ暗に／なった。

〔口語文法シリーズ〕 文法7(文の成分②)

年 組 氏名

次の文の述語(どうする<動作>・何だ・どんなだ<性質や状態>・ある[ない]<存在>)が、だれの(何の)動作<性質・状態・存在など>か考えましょう。

(例) 向こうの／角に／小さな／犬が／いる。

この文の述語は「いる」です。「いる」は人や生き物に対して使う言葉なので、まずこの文の中から「だれが」いると書かれているか、探しましょう。見つかありませんね。では「何が」いると書かれているか、探しましょう。そうです。「犬が」いるですね。ですから、「犬が」が正解です。

<問題>

次の各文の述語が、だれの(何の)動作<性質・状態・存在>か考え、その「だれ(何)」が書かれている文節に下線を引きましょう。

(例) 向こうの／角に／小さな／犬が／いる。

- ① 明日は／体育大会だ。
- ② あの／丘に／登れば、／海が／見える。
- ③ 黄色い／花が／風に／ゆれる。
- ④ 観衆が／彼に／向かって／拍手を／おくれた。
- ⑤ 公園には／たくさんの／人々が／集まる。
- ⑥ 練習が／終わったのは、／5時半だ。
- ⑦ 突然、／あたりは／真っ暗に／なった。

## 〔口語文法シリーズ〕 文法7(文の成分②)

年 組 氏名

学習するみなさんへ：

正しく見つけられましたか？

その文の中の述語が何(人や物)の動作<性質・状態・存在>かを考えるときに、注意しなくてはいけないのが、述語が表す動作<性質・状態・存在>が、人のする動作<性質・状態・存在>なのか、人以外のものがある動作<性質・状態・存在>なのか、人も人以外もする動作<性質・状態・存在>なのかを判断することです。

人のする動作<性質・状態・存在>なら、「だれが」を探します。人以外なら、「何が」を探します。どちらも考えられるなら、両方とも探します。

(例) 向こうの／角に／小さな／犬が／いる。

「いる」という述語の意味だけで考えると、人も考えられますが、「向こうの角に小さな犬がいる」という内容なのですから、人は探さなくていいですね。

述語に対して、これらの「だれが・何が」にあたる文節を、主語(しゅご)と言います。覚えておきましょう！

## 解答

- ① 明日は／体育大会だ。
- ② あの／丘に／登れば、／海が／見える。
- ③ 黄色い／花が／風に／ゆれる。
- ④ 観衆が／彼に／向かって／拍手を／おくれた。
- ⑤ 公園には／たくさんの／人々が／集まる。
- ⑥ 練習が／終わったのは、／5時半だ。
- ⑦ 突然、／あたりは／真っ暗に／なった。

〔口語文法シリーズ〕 文法8(文の成分③)

年 組 氏名

前回までの復習です。次の文の主語に下線を引き、述語に二重下線を引きましょう。

(例) 向こうの／角に／小さな／犬が／いる。

述語は、その文の中で、「どうする<動作>・何だ・どんなだ<性質や状態>・ある<ない>《存在》」にあたる文節で、ふつう文末にあります。

主語は、述語に対して「何が」・「だれが」にあたる文節で、ふつう述語よりも前にあります。

主語と述語を探すときは、まず初めに述語を探し、その後で主語を探します。

(例) 向こうの／角に／小さな／犬が／いる。

<問題>

次の各文の主語に下線を引き、述語に二重下線を引きましょう。

(例) 向こうの／角に／小さな／犬が／いる。

- ① 夕日が／とても／まぶしい。
- ② ここに／一冊の／厚い／専門書が／ある。
- ③ 佐藤先生、／太郎君は／今日／欠席します。
- ④ 私の／部屋には／大きい／テレビも／あります。
- ⑤ 彼こそ／生徒会の／会長に／ふさわしい。

## [口語文法シリーズ] 文法8(文の成分③)

年 組 氏名

学習するみなさんへ：

正しく見つけられましたか？

述語(どうする&lt;動作&gt;・何だ・どんなだ&lt;性質や状態&gt;・ある&lt;ない&gt;《存在》)を探す。ふつう、文末にある。



主語(述語に対しての「何(だれ)が」)を探す。ふつう、述語よりも前にある。

この順序を、忘れないようにしましょう！

また、主語は、「～が」「～は」という文節だけではなく、「～も」「～こそ」「～さえ」「～しか」「～でも」などの文節の場合もあります。その文の述語に対し、「何(だれ)が」という内容の文節が主語ですので、意味を考えることが大切です。気をつけましょう！

## 解答

- ① 夕日が／とても／まぶしい。
- ② ここに／一冊の／厚い／専門書が／ある。
- ③ 佐藤先生、／太郎君は／今日／欠席します。
- ④ 私の／部屋には／大きい／テレビも／あります。
- ⑤ 彼こそ／生徒会の／会長に／ふさわしい。

## 〔口語文法シリーズ〕 文法9(文の成分④)

年 組 氏名

今回は、係り受けの学習をします。

(例) 向こうの／角に／小さな／犬が／いる。

このような主語(犬が)と述語(いる)とを、主語・述語の関係と言います。また、主語(犬が)が述語(いる)に係(かかる)、主語(犬が)を述語(いる)が受ける、主語と述語の係り受けとも言います。

係り受けには、主語・述語の関係の他にもあります。例えば、「小さな」という文節について考えてみましょう。「小さな」何？と書かれていますか？と聞かれれば、おそらくすぐに、犬と答えるでしょう。「小さな」は犬の大きさを表しており、「どんな犬」かを表しています。つまり、犬の説明(色・形・大きさ・種類……どのよう)になっています。このような説明をしている文節と説明をされている文節についても、係り受けと言います。ですから、「小さな」は「犬が」に係り、「小さな」を「犬が」は受けていると言います。

<問題>

次の各文の下線が引かれた文節に係る文節(を受ける文節・が説明している文節)に、二重下線を引きましょう。

(例) 向こうの／角に／小さな／犬が／いる。

- ① 明日は／楽しい／体育大会だ。
- ② あの／丘に／登れば、／海が／見える。
- ③ 黄色い／花が／風に／ゆれる。
- ④ 観衆が／彼に／向かって／拍手を／おくれた。
- ⑤ 公園には／たくさんの／人々が／集まる。
- ⑥ きびしい／練習が／終わったのは、／5時半だ。
- ⑦ 突然、／あたりは／真っ暗に／なった。

## 〔口語文法シリーズ〕 文法9(文の成分④)

年 組 氏名

学習するみなさんへ：

正しく見つけれられましたか？

(例) 公園に／たくさんの／人々が／集まる。

「公園に」に係る(相手の)文節(を受ける文節)を探すには、「公園に」「何(なの)?どう(したの)?」と考えていけば正解に行き着きます。候補は三つ。「たくさんの」「人々が」「集まる」。迷ったときは、一番後の文節が正解です。「どこに」「集まる」の?「公園に」。公園は「集まる」場所を説明しています。ですから、「集まる」が答えなのです。この、「公園に」のように、係る(係っていく)・説明をしている文節を、修飾語と言います。また、他の文節に係ることを、修飾するとも言います。また修飾されている(受けている文節)を、被修飾語と言います。解答の被修飾語をよく見ると、「体育大会だ」や「花が」のように、主語や述語が被修飾語になっています。このように、被修飾語には、他の文節としての働きがあります。

## 解答

- ① 明日は／楽しい／体育大会だ。
- ② あの／丘に／登れば、／海が／見える。
- ③ 黄色い／花が／風に／ゆれる。
- ④ 観衆が／彼に／向かって／拍手を／おくれた。
- ⑤ 公園には／たくさんの／人々が／集まる。
- ⑥ きびしい／練習が／終わったのは、／5時半だ。
- ⑦ 突然、／あたりは／真っ暗に／なった。

## 〔口語文法シリーズ〕 文法10(文の成分⑤)

年 組 氏名

今回は、**修飾・被修飾**の関係を学習しましょう。

(例) 向こうの／角に／小さな／犬が／いる。

二重下線が引かれている文節「いる」を修飾している文節(修飾語)を探しましょう。  
修飾語とは、他の文節を修飾している(いつ・どこ・どう・どのように……等説明している)文節です。その文の中で、伝えようとしている内容から考えることとなります。

では、「いる」を被修飾語とする修飾語をさがしてみましょう。

「向こうの」はどうでしょう? 「向こうの」「いる」?? 続けられませんね。ということは、「向こうの」は「いる」の修飾語ではありません。

「角に」はどうでしょう? 「角に」「いる」。続けられますね。「角に」は「いる」場所を説明していますから、「角に」は、「いる」を修飾しています。

「小さな」は? 「いる」に続けられませんね。

「犬が」は? 「いる」にももちろん続いていますますが、これは修飾しているのではなく、主語ですね。

ですから、「いる」を被修飾語とする修飾語は、「角に」ということとなりますね。

このように意味を考えながら探すこととなります。この時、うっかり主語・述語の関係と、**修飾・被修飾**の関係を間違えないように、先に主語と述語を探しておくといいでしょう。

## &lt;問題&gt;

次の各文の二重下線が引かれた文節を修飾しているすべて(一つとは限りません)の文節(修飾語)に、下線を引きましょう。

次の各文の二重下線が引かれた文節を修飾しているすべての文節(修飾語)に、下線を引きましょう。

(例) 向こうの／角に／小さな／犬が／いる。

- ① 明日は／楽しい／体育大会だ。
- ② あの／丘に／登れば、／海が／はっきり／見える。
- ③ 黄色い／花が／風に／ゆれる。
- ④ 観衆が／彼に／向かって／拍手を／おくれた。
- ⑤ 公園には／たくさんの／人々が／集まる。
- ⑥ きびしい／練習が／終わったのは、／もう／5時半だ。
- ⑦ 突然、／あたりは／真っ暗に／なった。

## 〔口語文法シリーズ〕 文法10(文の成分⑤)

年 組 氏名

学習するみなさんへ：

正しく見つけられましたか？

(例) 向こうの / 角に / 小さな / 犬が / いる。

もう一度例文で確認しましょう。

例えば「小さな」が修飾している文節(被修飾語)を探すときは、「小さな」・「何？」と探すことになり、また、「小さな」を修飾している文節(修飾語)を探すときは、「何(の)」・「小さな」?、「どう」・「小さな」?と探すことになります。この場合、被修飾語は「犬が」で、修飾語はありません。文の中で文節どうしがいろいろな係り受けの関係になっています。それらの係り受けを誤解しないように気をつけましょう。

## 解答

(例) 向こうの / 角に / 小さな / 犬が / いる。

- ① 明日は / 楽しい / 体育大会だ。
- ② あの / 丘に / 登れば、 / 海が / はっきり / 見える。
- ③ 黄色い / 花が / 風に / ゆれる。
- ④ 観衆が / 彼に / 向かって / 拍手を / おくれた。
- ⑤ 公園には / たくさんの / 人々が / 集まる。
- ⑥ きびしい / 練習が / 終わったのは、 / もう / 5時半だ。
- ⑦ 突然、 / あたりは / 真っ暗に / なった。

## 〔口語文法シリーズ パートⅡ〕 文法11(文の成分⑥)

年 組 氏名

今回は、**接続語**の学習をしましょう。

(例) 雨なので／体育祭は／中止に／なった。

例では、述語が「なった」。主語は「体育祭は」ですね。「中止に」は、「なった」に係る修飾語ですね。

では、「雨なので」はどうでしょうか？述語でも主語でもなく、他の文節を説明してはいませんから、修飾語でもありませんね。文の内容をよくみると、「(今日は)雨」、だから、「体育祭は／中止に／なった」ということですね。

このように、前後の文や語句をつなぐ働きをしている(ことばが入った)文節を、**接続語**と言います。

(例) 今日は／雨だ。 だから／体育祭は／中止に／なった。

この例ではどうでしょうか？**接続語**がどの文節か分かりますか？「だから」です。こちらの方が分かりやすかったかもしれませんね。これらの例のように、**接続語**(つなぐ働きをすることば)によって、二つの文を一つにしたり、一つの文を二つに分けたりできます。

<問題>

次の各文の中から**接続語**を探し、下線を引きましょう。

(例) 雨なので／体育祭は／中止に／なった。

- ① 道を／聞いた。　すると／すぐ／分かった。
- ② まっすぐ／行くと／海に／出た。
- ③ 外は／雪だ。　寒いけれど／外で／遊ぼう。
- ④ 疲れたけれど／私は／学習を／続けた。
- ⑤ 行くか／あるいは／帰るか、／よく／考えて／決めよう。
- ⑥ ところで／運動は／好きですか。
- ⑦ 結果が／良かった。　なぜなら／しっかり／練習したからだ。

## [口語文法シリーズ パートⅡ] 文法11(文の成分⑥)

年 組 氏名

学習するみなさんへ:

正しく見つけられましたか？

(例) 今日は／雨だが／体育祭は／行われた。今日は／雨だ。 が、／体育祭は／行われた。

これらの例では、どちらも内容的には同じですが、文の数に違いがあります。上の例では、「雨だが」という文節の「が」ということばがつながり働きをしていて、「雨だが」が**接続語**となります。下の例では、「が」だけで一文節で、「が」が**接続語**となります。

## 解答

- ① 道を／聞いた。 すると／すぐ／分かった。
- ② まっすぐ／行くと／海に／出た。
- ③ 外は／雪だ。 寒いけれど／外で／遊ぼう。
- ④ 疲れたけれど／私は／学習を／続けた。
- ⑤ 行くか／あるいは／帰るか、／よく／考えて／決めよう。
- ⑥ ところで／運動は／好きですか。
- ⑦ 結果が／良かった。 なぜなら／しっかり／練習したからだ。

## [口語文法シリーズ パートⅡ] 文法12(文の成分⑦)

年 組 氏名

今回は、文の成分の最後の種類、独立語の学習をしましょう。  
独立語は、今まで学習した、主語・述語・修飾語・接続語ではないものを言います。では、どのようなものがあるのかというと、

- (例) 五月五日、／それは／こどもの日です。  
お母さん、／出かけて／きます。  
いいえ、／よく／わかりません。  
わー、／すばらしい／景色だ。

これらの例の下線部の文節が、独立語です。多くの場合文のはじめにあります。  
一例目は、独立語の中の、**提示**と言います。例をあげているような形のもので、  
二例目は、**呼びかけ**と言います。  
三例目は、**応答**と言います。返事のことですね。  
四例目は、**感動**と言います。一般的な「感動」とは違った印象のものも含まれますので、注意が必要です。

&lt;問題&gt;

次の各文の中から独立語を探し下線を引き、( )の中にその意味を書きましょう。

- (例) ああ、／すばらしい。 (感動)
- ① アメリカ、／それは／自由の／国だ。 ( )
- ② もしもし、／鈴木さんですか。 ( )
- ③ まあ、／美しい／文字だ。 ( )
- ④ はい、／とても／よく／わかりました。 ( )
- ⑤ ほほう、／そんな／話が／あったのですか。 ( )
- ⑥ シューベルト、／彼の／曲が／一番／好きだ。 ( )
- ⑦ 慎ちゃん、／早く／持って／きて。 ( )

## [口語文法シリーズ パートⅡ] 文法12(文の成分⑦)

年 組 氏名

学習するみなさんへ:

正しく見つけられましたか？

独立語は、主語・述語・修飾語・接続語ではないものを探すことで見つかりますし、提示・呼びかけ・応答・感動を表すものを探すことでも見つけられます。あなた自身に合う探し方を見つけてみましょう。

## 解答

- ① アメリカ、／それは／自由の／国だ。 ( 提示 )
- ② もしもし、／鈴木さんですか。 (呼びかけ)
- ③ まあ、／美しい／文字だ。 ( 感動 )
- ④ はい、／とても／よく／わかりました。 ( 応答 )
- ⑤ ほほう、／そんな／話が／あったのですか。 ( 感動 )
- ⑥ シューベルト、／彼の／曲が／一番／好きだ。 ( 提示 )
- ⑦ 慎ちゃん、／早く／持って／きて。 (呼びかけ)

## 〔口語文法シリーズ パートⅡ〕 文法13(文の成分⑧)

年 組 氏名

今回は、**連文節**の学習をしましょう。

(例) 父と／母が／来る。

この文の述語は「来る」ですね。では、主語は？「母が」と答えたあなた、「来る」のは「母」だけですか？「父」も「来る」のですね。

このように、実際の文には、一つの文節だけで一つの文の成文になっているとはかぎらず、この例のように「父と／母が」の二文節で主語の働きをしている場合もあります。

それでは、次の例ではどうでしょうか？

(例) かぎを／かけて／おく。(述語は？)

はちが／花の／みつを／吸う。(修飾語は？)

春に／なったので／新芽が／出た。(接続語は？)

豊かな／心、／それが／大切だ。(独立語は？)

一例目では、「ドウシタ」のか。「おく」ではなく「かけて／おく」ことをしたのですね。ですから、述語に当たる部分は「かけて／おく」です。

二例目では、「吸う」にかかる修飾語を、「みつを」だけでなく、「花の／みつを」とまとめられますね。

三例目では、「なったので」だけを接続語と考えるのではなく、「春に」という修飾語もまとめたほうが分かりやすいですね。

四例目では、「心」が独立語ですが、「豊かな」という修飾語もまとめ、「豊かな／心」で独立語に当たる部分とできます。

以上のように、二つ以上の文節がまとまって一つの文の成分の働きをするものを、**連文節**と言います。連文節の場合、「主語」とは言わず「主部」、同じように「述部」「修飾部」「接続部」「独立部」と言います。「——語」は一文節、「——部」は連文節の場合です。

<問題>

次の各文の中から連文節を探し、下線を引きましょう。

(例) 一匹の／はちが／飛ぶ。(主部)

① 雨が／強く／降って／きた。(述部)

② アメリカの／学校に／通う。(修飾部)

③ 天気が／いいので／散歩を／続けた。(接続部)

④ 100M走に／出場する／人、／ここに／集まりなさい。(独立部)

⑤ 机の／上に／ノートと／筆箱が／ある。(主部)

⑥ 彼は／とても／素直で／優しい。(述部)

⑦ 大切に／育てた／花が／美しく／咲いた。(主部)

## [口語文法シリーズ パートⅡ] 文法13(文の成分⑧)

年 組 氏名

学習するみなさんへ:

正しく見つけられましたか？

これらのように、一文節ずつで文の成分となっていない場合も多く、連文節の考え方は大切です。「――語」ではなく、「――部」と言いますので、間違えないようにしましょう。

## 解答

- ① 雨が／強く／降って／きた。(述部)
- ② アメリカの／学校に／通う。(修飾部)
- ③ 天気が／いいので／散歩を／続けた。(接続部)
- ④ 100M走に／出場する／人、／ここに／集まりなさい。(独立部)
- ⑤ 机の／上に／ノートと／筆箱が／ある。(主部)
- ⑥ 彼は／とても／素直で／優しい。(述部)
- ⑦ 大切に／育てた／花が／美しく／咲いた。(主部)

## 〔口語文法シリーズ パートⅡ〕 文法14(文の成分⑨)

年 組 氏名

今回は、**連文節**の学習の続きです。

(例) 父と／母が／来る。

この文の述語は「来る」ですね。主語ではなく、主部は「父と／母が」でした。この「父と」と「母が」という二つの文節に注目すると、それぞれが**対等な関係**だと言えますね。

それでは、次の例ではどうでしょうか？

(例) 彼は／とても／素直で／優しい。

この文では、「素直で／優しい」が、述部でした。この「素直で」と「優しい」という二つの文節も、それぞれが**対等な関係**だと言えますね。

これらのように、二つ(以上)の文節が**対等の関係**で並び、**連文節**で文の成分として働く文節どうしの関係を、**並立の関係**と言います。

また、並立の関係になっているそれぞれの文節を、**並立語**と言います。

<問題>

次の各文の中から並立の関係にある文節を探し、下線を引きましょう。

(例) ちょうや／はちが／飛ぶ。

- ① 雨と／風が／強く／なって／きた。
- ② とうがらしと／ピーマンは／どうも／苦手だ。
- ③ 弟は／公園で／跳んだり／走ったり／して／遊んだ。
- ④ 大きくて／美しい／真っ赤な／バラだ。
- ⑤ 机の／上に／ノートと／筆箱が／ある。
- ⑥ 友だちの／鈴木君は／いつも／ほがらかで／親切だ。
- ⑦ 深くて／暗いので／だれも／洞くつに／入れなかった。

〔口語文法シリーズ パートⅡ〕 文法14(文の成分⑨)

年 組 氏名

---

学習するみなさんへ：

正しく見つけられましたか？

連文節の中でも、並立の関係になっているものは見つけやすかったのではないですか？しっかりと身につけましょう。

解答

- ① 雨と／風が／強く／なって／きた。
- ② とうがらしと／ピーマンは／どうも／苦手だ。
- ③ 弟は／公園で／跳んだり／走ったり／して／遊んだ。
- ④ 大きくて／美しい／真っ赤な／バラだ。
- ⑤ 机の／上に／ノートと／筆箱が／ある。
- ⑥ 友だちの／鈴木君は／いつも／ほがらかで／親切だ。
- ⑦ 深くて／暗いので／だれも／洞くつに／入れなかった。

## [口語文法シリーズ パートⅡ] 文法15(文の成分⑩)

年 組 氏名

今回も、連文節の学習の続きです。

(例) 赤ちゃんが／笑って／いる。

この文の述語(述部)は、「いる」ではなく「笑って／いる」でしたね。「いる」には、もともとの「いる」の意味がなく(薄れ)、この文での意味上の述語は「笑って」になっています。

このような、「笑って」と「いる」の文節の関係を、補助の関係と言います。また、「いる」のように、「そういう状態にある」という軽い意味を添えているだけの文節を、補助語と言います。では、次の例ではどうでしょうか？

(例) ためしに／外を／走って／みる。

この文では、「走って／みる」が、述部で、補助の関係になっています。また、「みる」が補助語です。

<問題>

次の各文の中から補助の関係にある文節を探し、下線を引きましょう。

(例) 赤ちゃんが／笑って／いる。

- ① 宿題を／早めに／やって／しまう。
- ② 彼に／教えて／やる／人は／少ない。
- ③ 少しずつ／勉強が／わかって／きた。
- ④ 明後日／友だちと／会って／くる。
- ⑤ 忙しいのに／親切に／道を／教えて／くれた。
- ⑥ 破れて／しまった／傘を／持って／行った。
- ⑦ 鉛筆で／書いて／ある／字が／消えて／しまった。

## [口語文法シリーズ パートⅡ] 文法15(文の成分⑩)

年 組 氏名

学習するみなさんへ:

正しく見つけられましたか？

実は、補助語はもともとの意味がなくなって(薄れて)いるので、漢字では書きません(書けません)。

連文節の中で、補助の関係になっているものは多く、補助語のもともとの意味を考えなくてはいけない点、難しいですね。間違えても、一つ一つ意味を覚えて、しっかりと身につけましょう。

## 解答

- ① 宿題を / 早めに / やって / しまう。
- ② 彼に / 教えて / やる / 人は / 少ない。
- ③ 少しずつ / 勉強が / わかって / きた。
- ④ 明後日 / 友だちと / 会って / くる。
- ⑤ 忙しいのに / 親切に / 道を / 教えて / くれた。
- ⑥ 破れて / しまった / 傘を / 持って / 行った。
- ⑦ 鉛筆で / 書いて / ある / 字が / 消えて / しまった。

## [口語文法シリーズ パートⅡ] 文法16(単語①)

年 組 氏名

今回から、単語について学習をしましょう。  
前回まで、文節について学習してきましたが、文節はさらに単語に分かれます。

(例) 向こうの／角に／小さな／犬が／いる。

この文の「向こうの」という文節は、「向こう」までで意味が分かりますね。つまり、「向こう／の」に分けられるのです。この「向こう」「の」のそれぞれを単語と言います。

「向こう」のように、それだけで意味が分かり、文節の初めにくる単語を、自立語と言います。

では、残りの文節も分けてみましょう。「角に」は、どこまで意味が分かりますか？「角」までで分かりますね。だから、「角／に」と分かれます。次の「小さな」はどうでしょうか？「小さな」は分けられませんね。「犬が」は「犬／が」、「いる」は分けられませんね。

ですから、この文の場合、自立語は他に、「角」「小さな」「犬」「いる」でした。「小さな」や「いる」のように、自立語は、それだけで一文節になる場合もあります。

<問題>

次の各文の中から、自立語を探し、下線を引きましょう。

(例) 向こうの／か角に／こ小さな／い犬が／いいる。

- ① 明日は／楽しい／体育大会だ。
- ② あの／丘に／登ると、／海が／はっきり／見える。
- ③ 黄色の／花が／風に／ゆれる。
- ④ 観衆が／彼に／拍手を／おくる。
- ⑤ 公園に／町の／人々が／集まる。
- ⑥ きびしい／練習が／終わると、／もう／5時半だ。
- ⑦ 突然、／あたりは／暗闇に／なる。

## [口語文法シリーズ パートⅡ] 文法16(単語①)

年 組 氏名

学習するみなさんへ：

正しく見つけられましたか？

自立語は、文節の初めにあり(それだけで一文節の場合もあり)、それだけで意味の分かる単語です。

※「体育大会」は、それで一単語です。「体育」と「大会」の意味を足しても、「体育大会」にはなりません。「黄色」「五時半」も同じです。

## 解答

(例) 向こうの/角に/小さな/犬が/いる。

- ① 明日は/楽しい/体育大会だ。
- ② あの/丘に/登ると、/海が/はっきり/見える。
- ③ 黄色の/花が/風に/ゆれる。
- ④ 観衆が/彼に/拍手を/おくる。
- ⑤ 公園に/町の/人々が/集まる。
- ⑥ きびしい/練習が/終わると、/もう/5時半だ。
- ⑦ 突然、/あたりは/暗闇に/なる。

## [口語文法シリーズ パートⅡ] 文法17(単語②)

年 組 氏名

前は、自立語について学習しました。今回は、付属語について学習しましょう。

(例) 向こうの／角に／小さな／犬が／いる。

この文の中にある自立語は、「向こう」「角」「小さな」「犬」「いる」でした。

自立語に対し、付属語は、自立語の続きにあり(自立語だけで一文節を作っている場合はありません)、それだけでは意味がはっきりしない、それだけでは文節を作ることができない単語です。

この文で自立語ではない部分を見ると、「の」「に」「が」が残ってきます。これらが、付属語という単語です。「の」と聞いても意味が分かりませんが、「向こうの」や「私の」などと聞けば、意味は分かりますね。

<問題>

次の各文の中から、付属語を探し、下線を引きましょう。

(例) 向こうの／角に／小さな／犬が／いる。

- ① 明日は／楽しい／体育大会だ。
- ② あの／丘に／登ると、／海が／はっきり／見える。
- ③ 黄色の／花が／風に／ゆれる。
- ④ 観衆が／彼に／拍手を／おくる。
- ⑤ 公園に／町の／人々が／集まる。
- ⑥ きびしい／練習が／終わると、／もう／5時半だ。
- ⑦ 突然、／あたりは／暗闇に／なる。

[口語文法シリーズ パートⅡ] 文法17(単語②)

年 組 氏名

---

学習するみなさんへ：

正しく見つけられましたか？

付属語は、自立語ではない単語を探すことで見つけられます。

(例) 向こうのの / 角に / 小さな / 犬が / いる。

- ① 明日は / 楽しい / 体育大会 だ。
- ② あの / 丘に / 登ると、 / 海が / はっきり / 見える。
- ③ 黄色の / 花が / 風に / ゆれる。
- ④ 観衆が / 彼に / 拍手を / おくる。
- ⑤ 公園に / 町の / 人々が / 集まる。
- ⑥ きびしい / 練習が / 終わると、 / もう / 5時半 だ。
- ⑦ 突然、 / あたりは / 暗闇に / なる。

## [口語文法シリーズ パートⅡ] 文法18(単語③)

年 組 氏名

今回は、少し違った学習です。

(例) 向こうの角に小さな犬がいる。

この文の中の「いる」という単語(自立語)について、考えましょう。

「いる」に、もう終わったという意味になるように、「た」を続けるとどうなりますか？言葉の足し算です。

「いる」+「た」=「？」 答は、「いた」ですね。では次のはどうですか？

「いる」+「ない」=「？」

「いる」+「ば」=「？」

答は、「いない」「いれば」ですね。では、「いた」「いない」「いれば」のどこまでが「いる」なのか？そうです「いた」「いない」「いれば」が「いる」なのです。

単語の中には、この「いる」のように、後ろの言葉に続く時に変身するものがあります。とは言っても、「いる」の「る」の部分が変身している感じですね。このような変化を、活用と言います。「いる」は活用する単語(自立語)です。

<問題>

次の各文の中から、活用する単語を探し、下線を引きましょう。

(例) 向こうの角に小さな犬がいる。

- ① 明日は楽しい体育大会だ。
- ② あの丘に登ると、海がはっきり見える。
- ③ 黄色の花が風にゆれる。
- ④ 観衆が彼に拍手をおくる。
- ⑤ 公園に町の人々が集まる。
- ⑥ きびしい練習が終わると、もう5時半だ。
- ⑦ 突然、あたりは暗闇になる。

## [口語文法シリーズ パートⅡ] 文法18(単語③)

年 組 氏名

学習するみなさんへ：

正しく見つけられましたか？

一つ一つの単語に、他のものでもよいのですが、例えば「た」を続けることで判断できません。

そのときに、「た」に続けられない単語が、実は数多くあります。「活用しない、活用のない」単語です。

「明日」+「た」=× ですね。

続けられる単語(活用する単語)と続けられない単語(活用しない単語)が見分けられるように、学習しましょう。

(例) 向こうの角に小さな犬がいる。

- ① 明日は 楽しい 体育大会 だ。
- ② あの丘に 登る と、海がはっきり 見える。
- ③ 黄色の花が風に ゆれる。
- ④ 観衆が彼に拍手を おくる。
- ⑤ 公園に町の人々が 集まる。
- ⑥ きびしい 練習が 終わる と、もう 5時半 だ。
- ⑦ 突然、あたりは暗闇に なる。



## [口語文法シリーズ パートⅡ] 文法19(単語④)

年 組 氏名

学習するみなさんへ:

正しく見分けられましたか？

今回単語分けをしたものは、一度分けた(学習した)ものなのですが、難しくありませんでしたか？

正しく分けられるよう、繰り返して下さい。次回は、レベルアップした問題に取り組みましょう。

(例) 向こうの角に小さな犬がいる。

- ① 明日は楽しい体育大会だ。
- ② あの丘に登ると、海がはっきり見える。
- ③ 黄色の花が風にゆれる。
- ④ 観衆が彼に拍手をおくる。
- ⑤ 公園に町の人々が集まる。
- ⑥ きびしい練習が終わると、もう5時半だ。
- ⑦ 突然、あたりは暗闇になる。

## 〔口語文法シリーズ パートⅡ〕 文法20(単語⑤)

年 組 氏名

今回も、単語分けの学習です。

(例) 彼はとても素直で優しいそうだ。

単語に分けるために、文節に分けて

彼は／とても／素直で／優しいそうだ。

続いて、自立語がどこまでかを判断し、残ってきた部分が、付属語になる。

彼は／とても／素直で／優しいそうだ。  
自 付 自 自 自 付

この時、活用のある単語についての注意が特に必要です。

※「素直で」は「素直だ」という自立語で、「素直」という自立語と「だ」という付属語に分けて考えません!(難しい!)

※「そうだ」と聞いても、はっきりとは意味が分からないように、付属語です。「そう」と「だ」に分かれることもありません。

<問題>

次の各文を単語に分け、下線を引きましょう。

- ① 雨と風が強くなってきた。
- ② とうがらしとピーマンはどちらも苦手だ。
- ③ 弟は公園で跳んだり走ったりして遊んだ。
- ④ 大きくて美しい真っ赤なバラだ。
- ⑤ 机の上にノートと筆箱がある。
- ⑥ 友だちの鈴木君はいつもほがらかで親切だ。
- ⑦ 深くて暗いのでだれも洞くつに入れなかった。

## [口語文法シリーズ パートⅡ] 文法20(単語⑤)

年 組 氏名

学習するみなさんへ:

正しく見分けられましたか?

今回の単語の学習で、とても難しく感じた人も、単語の学習はまだこれからです。これからの学習によって、今まで難しく感じたところがそうではなくなることも多いと思われます。これからも、頑張って文法の学習に取り組みましょう。

- ① 雨と風が強くなってきた。
- ② とうがらしとピーマンはどちらも苦手だ。
- ③ 弟は公園で跳んだり走ったりして遊んだ。
- ④ 大きくて美しい真っ赤なバラだ。
- ⑤ 机の上にノートと筆箱がある。
- ⑥ 友だちの鈴木君はいつもほがらかで親切だ。
- ⑦ 深くて暗いのでだれも洞くつに入れなかった。